



2025年 6月24日
第209号

JR東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

6月23日沖縄「慰霊の日」

2025年6月23日（月）は、20万人を超える方が犠牲となった旧日本軍による沖縄戦の組織的戦闘の終了から80年の「慰霊の日」でした。今年も、平和祈念公園内の「平和の礎」には沖縄戦に関連して亡くなったことがわかった名前が新たに342名刻印され、計24万2,567人となりましたが、未だに沖縄戦が終わっていないことを示しています。

慰霊の日には、恒久平和を願う「戦後80年沖縄全戦没者追悼式」が、沖縄戦末期の激戦地となった糸満市摩文仁の平和祈念公園で、一般参列者の参加のもと執り行われました。今年の追悼式では豊見城市の伊良波小学校6年、城間一步輝さんが「おばあちゃんの歌」を朗読し、

「八十年前の戦争でおばあちゃんは心と体に大きな傷を負ったその傷は何十年経っても消えない人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないようにおばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けていくおばあちゃんが繋いでくれた命を大切に一生懸命に生きていく」

と繋がれた命を大切に、戦争を語り続ける思いなど、平和に向けての決意を語りました。玉城デニー知事は平和宣言において、戦後80年は一つの通過点とし、戦後90年・100年を見据えて、国際社会とともに恒久平和の実現に貢献する役割を果たすために3つの行動をしていくことが語られました。石破首相は「沖縄が負われた深い傷に思いを致し、戦争の愚かさと悲惨さを改めて正面から見つめ、平和で豊かな沖縄の実現に向けて力を尽くすことは、国家の重要な責務」「沖縄の米軍基地負担軽減を、目に見える形で実現する。それが私自身の強い決意」と挨拶しましたが、沖縄県が求める名護市辺野古の新基地建設断念と自衛隊のミサイル基地配備については言及しませんでした。

JR東労組横浜地本は今年の1月に『沖縄平和研修』を開催し、軍隊は住民を守らないなどの戦争の本質や、平和の大切さ、また戦後から続く基地問題などを改めて学んできました。しかし、沖縄本島を含む南西諸島に台湾有事を想定したミサイル配備などが急ピッチで進められ、また「沖縄戦」が繰り返されようとしています。沖縄だけでなく日本全体が「新たな戦前」になりつつあります。

私たちは、平和な社会を実現するために考え、行動しなければなりません。

戦争を実際に経験した方々が少なくなっています。これからも戦後であり続けるために、学んだ私たちが、いかに次の世代に語り継ぎ、同じ悲しみを経験することがないよう、平和の灯を繋いでいくかは私たちの課題です。

**私たちが学んできたことを次の世代へ語り継ごう！
仲間と共に平和な社会を実現しよう！**